

「平成28年度全国学力・学習状況調査」の結果概要について

富山市教育委員会

I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

II 実施状況

- 1 実施期日 平成28年4月19日（火）
- 2 調査内容 教科に関する調査（国語、算数・数学）
質問紙調査（児童生徒、学校）
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
65校1分校	3,543人	26校1分校	3,636人

III 教科に関する結果の概況

1 教科区分別平均正答率

	小学校6年					中学校3年				
	国語A	国語B	算数A	算数B	合計	国語A	国語B	数学A	数学B	合計
富山市	75	62	81	53	271	78	71	65	49	263
富山県	75	61	81	51	268	78	71	65	49	263
全国	73	58	78	47	256	76	67	62	44	249

（A：主として「知識」に関する問題、B：主として「活用」に関する問題）

2 結果の概要

- ・ 平成19年度の本調査実施以降、教科区分別の本市の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っている。
- ・ 小学校・中学校ともに、平均正答率を全国と比較すると、国語、算数・数学ともにA問題よりもB問題の差異が大きい。
- ・ 平均正答率を県と比較すると、小学校では国語B・算数Bで上回り、中学校では全ての教科で同等となっている。
- ・ 平均正答率の合計は、小学校で全国及び県を上回り、中学校では全国を上回っており県とは同等である。

全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率の比較 (H19～H28)

・H19、20、21、25、26、27、28：対象学年全員参加方式で実施。
 ・H22、24：抽出方式で実施。(抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。)
 ・H23：未実施。

【小学校6年生】

	国語 A									国語 B								
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	75	66.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2	62
市一全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	2	4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8	4
市一県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0	0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1	1
富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	75	66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1	61
県一全国	2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	2	4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7	3
全国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	73	62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4	58

	算数 A									算数 B								
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	81	67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7	53
市一全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3	3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7	6
市一県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0	0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2	2
富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	81	66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5	51
県一全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	3	2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5	4
全国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	78	63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0	47

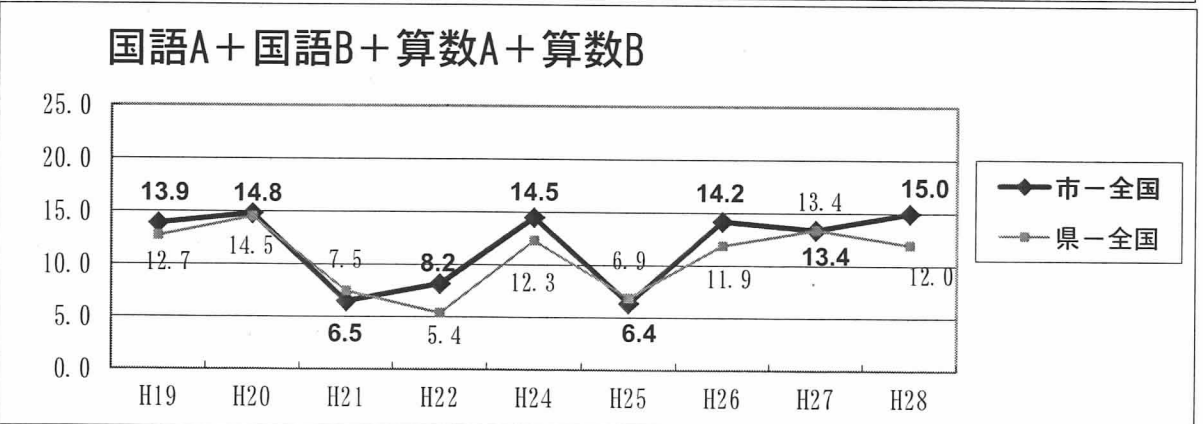
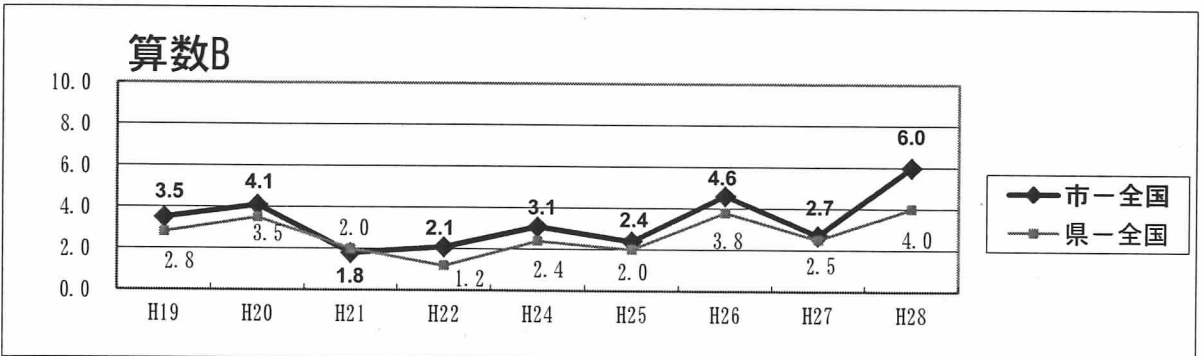
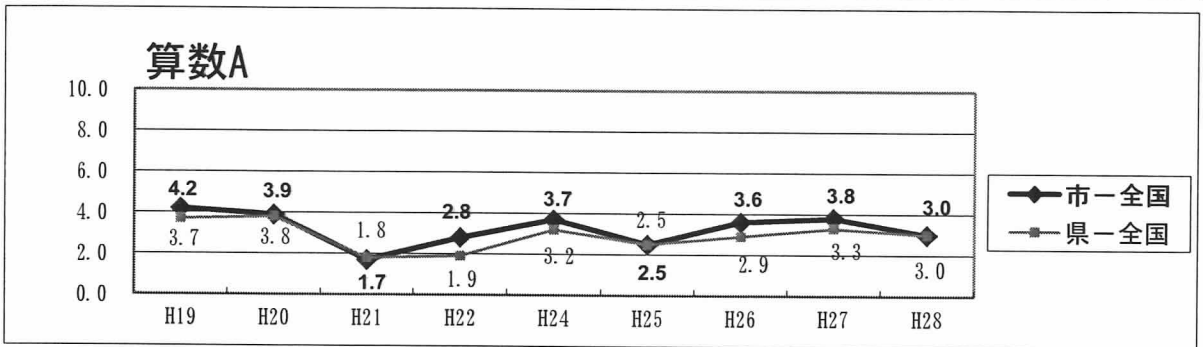
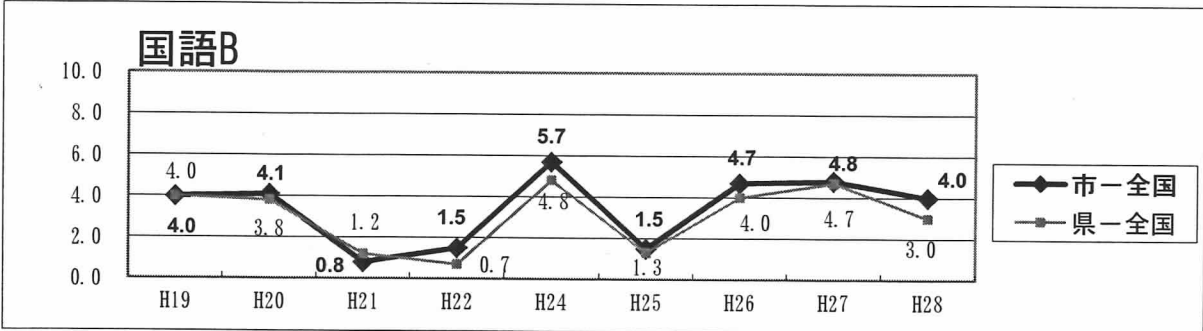
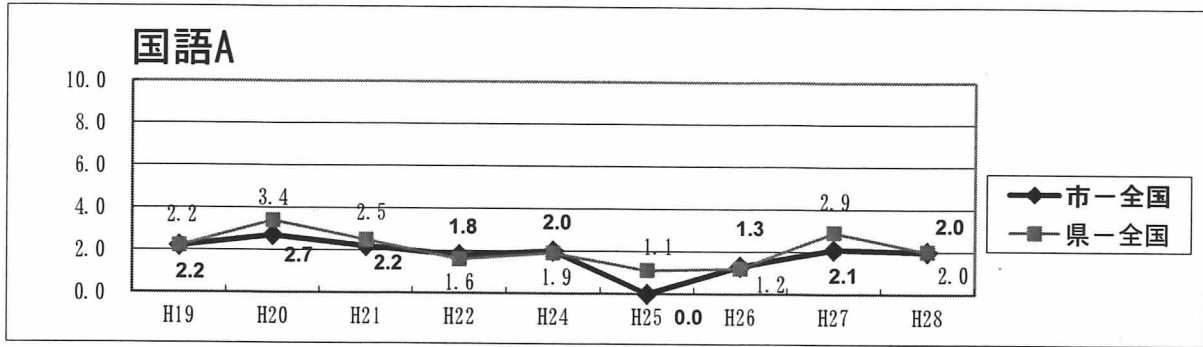
【中学校3年生】

	国語 A									国語 B								
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	78	76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5	71
市一全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	2	4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7	4
市一県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	0	-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3	0
富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	78	77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2	71
県一全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	2	5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4	4
全国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	76	72.0	60.9	74.5	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8	67

	数学 A									数学 B								
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	65	64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3	49
市一全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	3	4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7	5
市一県	-1.6	-1.7	-0.1	1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	0	-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8	0
富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65	65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	43.9	63.6	44.5	49
県一全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	3	5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9	5
全国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	62	60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6	44

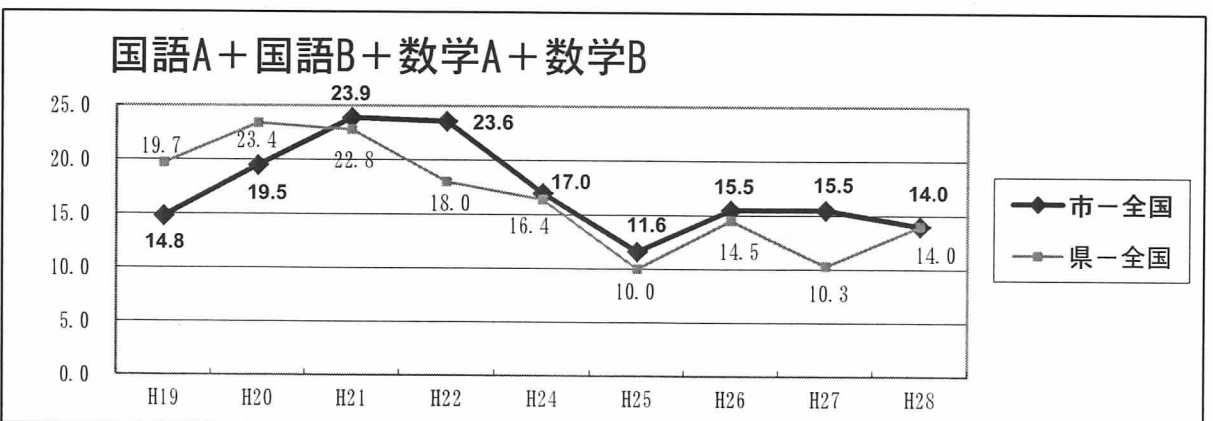
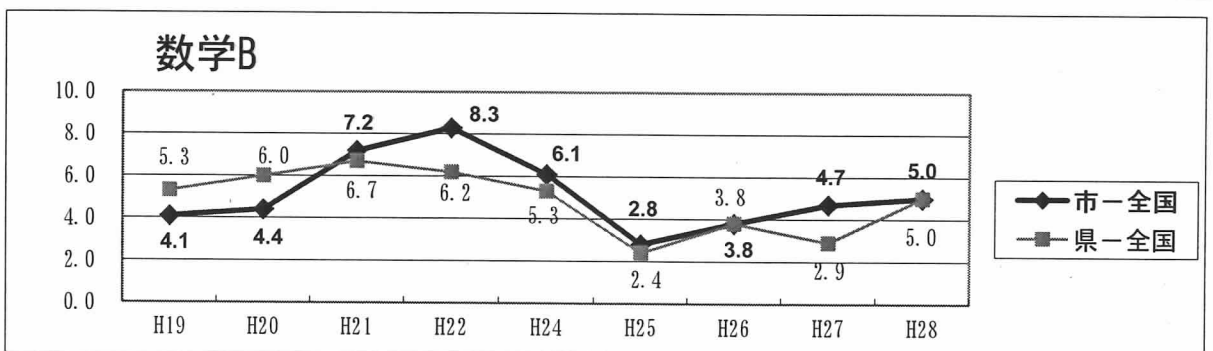
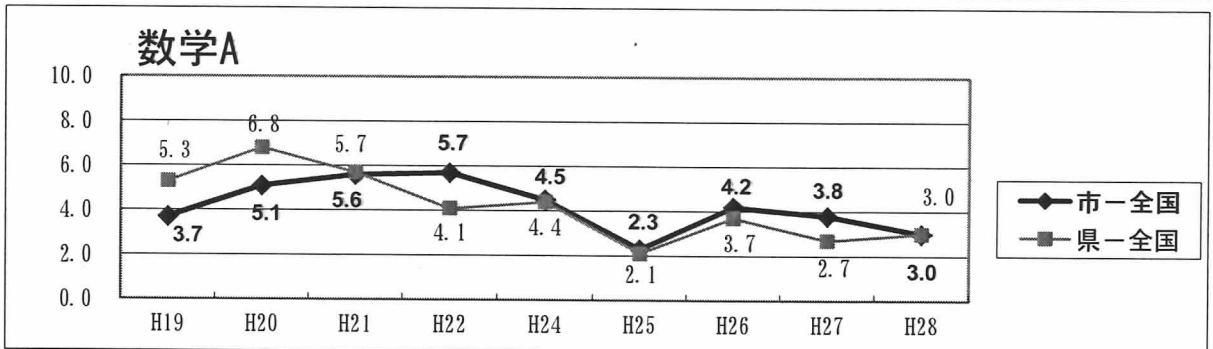
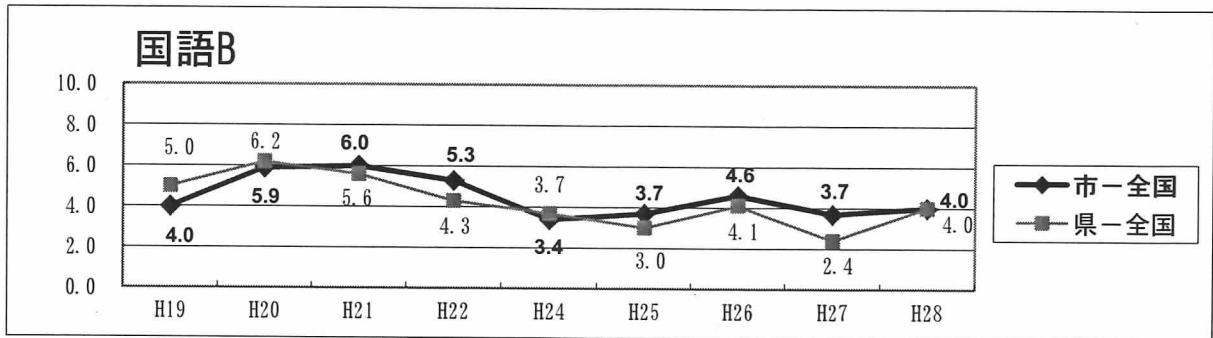
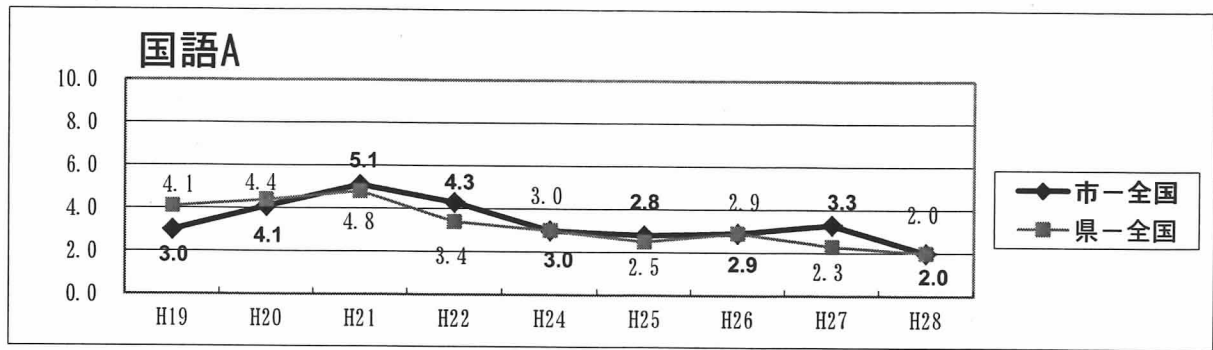
【小学校6年生】

※全国の平均正答率との差（％）



【中学校3年生】

※全国の平均正答率との差（％）



小学校国語

<p>結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国と平均正答率を比較すると、国語Aは2.3ポイント、国語Bは3.9ポイント高い。また、国語A、国語Bともに、全ての領域等・観点で、平均正答率が全国を上回っている。 ● 漢字を正しく読んだり、書いたりする問題の多くで、県平均を下回っている。学習した漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、学習や生活の中での書く活動場面において、適切に活用し確実に習得することができるように計画的に指導することが大切である。
<p>A：主として「知識」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 領域「書くこと」の平均正答率が全国よりも3.4ポイント高い。問題形式別では、選択式は、2.6ポイント、短答式は2.1ポイント上回っている。 ○ 読み手の立場から文章を客観的に評価し、どのように書き換えればよいのかを助言する問題の平均正答率は、全国よりも7.1ポイント高い。(設問3) 今後も目的や意図に応じて表現を推敲する力を養うために、ペアやグループで互いに書いたものを読み合い、助言し合う機会を設定することが大切である。 ● ローマ字表記では、清音に比べ、濁音、促音、拗音が含まれるものを正しく書いたり、読んだりすることに課題が見られる。3・4学年での学習にとどまらず、他教科等でもコンピュータを使った学習と関連づけるなどして、繰り返しローマ字を読んだり書いたりする機会を増やすことが大切である。(設問8)
<p>B：主として「活用」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 領域「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、全国と比べて5.5ポイント高い。目的に応じて質問したり、メモを基にして話の展開に沿った質問を選択したりする問題では、全国と比べておよそ7.0ポイント高い。(設問1一、三) ● グラフを基に、分かったことを的確に書く問題では、正答率が44.4%と低い。(設問2一) 社会科や算数科等においても図表やグラフの読み方を確認し、読み取ったことを的確に言葉で表現できるように指導していくことが必要である。

1 五つのお話を下書きし、三十パーセント、完成になりました。

2 五つのお話を下書きし、四十パーセント、以下になりました。

3 五つのお話を下書きし、六十パーセント、以下になりました。

4 五つのお話を下書きし、十パーセント程度になりました。

2

六十一歳の長寿者の安住は、長寿を志すために、一歩を踏み出し、運動を取り入れて、健康な生活を送っています。

【設問2】

○ 設問2は、長寿について、長寿を志すために、一歩を踏み出し、運動を取り入れて、健康な生活を送っています。

【設問1】

○ 設問1は、長寿について、長寿を志すために、一歩を踏み出し、運動を取り入れて、健康な生活を送っています。

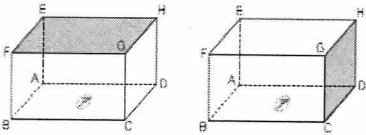
(●B 設問2一 正答率 44.4% 誤答率 54.8%)

小学校算数

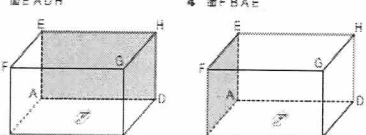
<p>結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の平均正答率を全国と比較すると、算数Aは3.2ポイント、算数Bは5.4ポイント高い。また、全ての領域・観点において、算数A、Bともに、平均正答率は全国を上回っている。 ● 算数Bの全体の平均正答率が52.6%であり、特に、「記述式」の問題形式の平均正答率が32.4%と低い傾向にある。自分の考えを、要点を押さえて明確に伝える力をはぐくむ活動を充実させていくことが大切である。
<p>A:主として「知識」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「数と計算」領域の設問別平均正答率は、全国と比較すると全て高い。中でも、減法や乗法、数の大小関係を問う設問においては、平均正答率が9割を超えており、基礎・基本の学習内容は概ね定着していることがうかがえる。 (設問1(3)、設問2(1)、設問2(4)、設問3(1)) ○ 「数量関係」領域の設問別平均正答率は、全国と比較すると高い。しかし、百分率における基準量と比較量の関係の理解を問う設問においては、全国の平均正答率を9.4ポイント上回っているものの、正答率は60.3%で数量関係に関する知識・理解の定着率に課題がある。 (設問9(2)) ● 「図形」領域では、直方体の面と面の位置関係を問う設問の平均正答率が、全国と比較して2.2ポイント低かった。立方体や直方体の学習において、具体物の観察や操作、位置関係の確認等の活動を取り入れ、位置関係をとらえる経験を積んだり、平面上に描かれた図形から立体図形をイメージしたりするような指導の改善が必要である。(設問7)
<p>B:主として「活用」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「数量関係」領域では、目的に応じて表やグラフを選択したり必要な情報を特定したりする設問の平均正答率が全国より10.3ポイント高い。資料を読み取る力、読み取った事実を根拠に判断する力、更に必要な資料を収集する力が育ってきていると推察される。 (設問4(1)) ● 「数学的な考え方」の観点の平均正答率が46.1%と、50%を下回っている。問題の構成を読み解き、必要な技能を活用し、筋道立てて処理したり思考の過程を表現したりする活動を積み重ねることが大切である。 ● 角の大きさに着目して、構成できる図形を判断する設問の平均正答率が24.6%であり、設問別平均正答率で唯一、全国を下回っている。無解答率が全国を2.1ポイント下回っていることから、誤答が多かったことが分かる。図形の特徴や角についての知識を基に、活動を通して図形の構成について考える場を設け、実感を伴った理解に結びつけることが大切である。 (設問5(2))

面⑦に塗る面はどれですか。
下の1から5までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

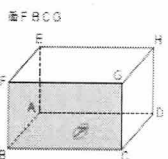
1 面EFGH 2 面GCDH



3 面EADH 4 面FBAE



5 面FBCG



あさ子

私は、どちらの学校の子どものほうが本をよく借りているかを、各学校の1人あたりの貸出冊数で比べたいです。
1人あたりの貸出冊数を求めるためには、各学校の貸出冊数の合計のほか、何を調べたらよいかな。


(1) あさ子さんのように各学校の1人あたりの貸出冊数を求めるためには、表1の□の各学校の貸出冊数の合計のほか、どのような数が必要ですか。
下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 各学校の、図書館を利用した人数
2 各学校の、学校全体の児童の人数
3 各学校の、図書館にある本の冊数
4 各学校の、本の種類ごとの貸出冊数

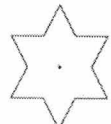
(2) A小学校の図書委員たちは、4月から7月までの4か月間の貸出冊数について、下の1から4までのように話しています。
下の1から4までの—— 話の1つについて、表1、表2だけではわからないものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

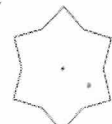
1 どちらの学校も6月の貸出冊数がいかに多いですね、校内読書週間の効果だと思います、私も校内読書週間をしましょう。
2 A小学校は「物語」の貸出冊数がいかに多いですね、おもしろい物語について、しょうかい文を書いてもらいましょう。
3 5月は「伝記」の貸出冊数が少ないですね、ポスターを作って呼びかけましょう。
4 A小学校の貸出冊数は、合計で9738冊ですね、次の4か月間は10000冊以上を目指しましょう。

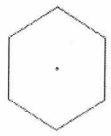
(2) 今度は、③の四角形を選んで形をつくりましょう。




⑦の角が1つの点のまわりに集まるように、③の四角形を並べていくと、ある形ができます。どのような形ができますか。
下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 

2 

3 

4 

(●A設問7 正答率75.8%
誤答率22.6%)

(○B設問4 (1)正答率58.6%
(2)正答率75.9%)

(●B設問5(2) 正答率24.6%
誤答率68.6%)

<p>結果の概要</p>	<p>○ 全国と平均正答率を比較すると、国語A・Bとも、全ての領域等・観点ともに、全国より高く、無解答率は、全国より低い。</p> <p>● 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」領域以外の領域の平均正答率は、県平均より下回っている。学習内容の系統性を理解し、後の学年の学習内容に影響を及ぼすことがないように、基礎的・基本的な内容の定着を図り、また、学習したことが日々活用できるような学習内容の工夫をすることが必要である。</p>
<p>A：主として 「知識」</p>	<p>○ 4つの領域とも、平均正答率を全国と比較するとやや高い結果となっている。「読むこと」の中で、資料集の奥付の役割や特徴をとらえる設問は、全国より平均正答率が6.3ポイント高かった。今後も「読むこと」の指導に当たっては、必要な情報を集めるための方法を身につけることができるような学習内容を取り入れることが望ましい。(設問8二)</p> <p>● 「伝統的な言語文化と言語の特質に関する事項」領域では、各設問の平均正答率にばらつきが見られる。特に、「手塩にかける」「白羽の矢が立つ」等の語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。慣用語等の表現を取り上げて、場面に即して正しく使う機会を学習に取り入れることが必要である。(設問9三)</p>
<p>B：主として 「活用」</p>	<p>○ 「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」と複数にわたる領域の指導事項に対応させて出題している設問2三や設問3三では、58.8%、64.7%と平均正答率が他の設問の平均正答率より低い。今後も、「読むこと」と「書くこと」を関連づけた単元構想や、生徒が意欲的に取り組むことができる言語活動に取り組むことが大切である。(設問2三、設問3三)</p> <p>● 記述式の設問では、無解答率が高い傾向にあり、設問3三では、15.7%であった。文章を読んで内容を正しく理解するとともに、子どもが考えを自分の言葉で書くまでの学習過程を重視したり、授業のまとめや振り返りにおいて多様な形式で書く時間を確保したりするなど、書いて表現することが習慣化されるような指導方法を工夫する。(設問1三、2三)</p>

三 次のアからオの文では、()の中の「か」までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ1選びなさい。

ア 彼は、忙しい仕事の合間を()1 付けて、2 経って、3 閉じて、4 締めて、私に会いに来てくれた。

イ 厳し、挑戦だ()1 ことは、2 1 もしも、3 2 とうか、4 3 めったに、5 4 もあん、6 1 分かって、います。

ウ 弟子を()1 手塚に、2 1 まで、3 2 ひいて、4 3 かけて、5 4 じきに、6 1 直して、

エ 私がプリントを集めて、先生に()1 お届けなます、2 2 お届けします、3 3 お届けられます、4 4 お届けになります。

オ 会長候補として、白羽の矢が()1 立つ、2 刺さる、3 飛ぶ、4 向かう。

石油ランプ

※ 次の文は、下書きに記してもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

三 あなたは、図鑑の図鑑を参考に、石油ランプの構造のしくみをよく分かった。図鑑の図鑑を参考に、石油ランプの構造のしくみをよく分かった。図鑑の図鑑を参考に、石油ランプの構造のしくみをよく分かった。図鑑の図鑑を参考に、石油ランプの構造のしくみをよく分かった。

(●A設問9三ウ 正答率59.1%
誤答率40.2%、無解答率0.7%)

(●B設問3三 正答率64.7%
誤答率19.6%、無解答率15.7%)

<p>結果の概要</p>	<p>○ 全国と平均正答率を比較すると、数学A、Bともに、全ての領域・観点で高くなっている。特に数学Bでは、全ての設問で全国より高い。また、無解答率は、数学A、Bのほとんどの設問で低くなっている。</p> <p>● 数学Bの記述式の設問の平均正答率が他の問題形式より低く、無解答率も他のと比べると高い傾向にある。具体的な事象を的確に捉え、筋道を立てて数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。</p>
<p>A：主として「知識」</p>	<p>○ 「関数」や「資料の活用」領域の平均正答率が全国と比べて高い。一次関数の表からグラフを選ぶ設問、1枚の硬貨を投げたときの確率について正しい記述を選ぶ設問は、平均正答率が約7割で、全国より約5ポイント以上高い。 (設問10(1)、設問13(1))</p> <p>● 与えられた数から自然数を選ぶ設問は、平均正答率が全国を5.4ポイント下回っている。また、ある数aを(除数)\times(商)$+$(余り)の形の文字式に表す設問の平均正答率は、33.9%と数学Aでもっとも低い。基礎的な数学用語を理解するとともに、数量の関係を図や式に表して関連づけながら説明させるなどの活動を充実していく必要がある。 (設問1(2)、設問2(1))</p>
<p>B：主として「活用」</p>	<p>○ 「資料の活用」領域の平均正答率が全国と比べて高い。特に、グラフを適切に読み取り相対度数を求める式を答える設問は、全国を16.1ポイント上回っている。今後も、資料の情報を的確にとらえ、必要な情報を選択して判断したり数学的に表現したりする授業を大切にすることが必要である。 (設問5(2))</p> <p>● 数当てゲームの手順が文字を用いた式で表されることを理解し、最初に決めた数を当てる方法を説明する設問は、平均正答率が17.9%と数学Bでもっとも低く、無解答率も35.9%と高い。授業では、文字を用いた四則計算の技能を身につけるだけでなく、処理の手順を数学的に考察する場面を設定して説明させたり、問題解決の過程を振り返って考えたりする数学的活動を充実させることが大切である。 (設問6(2))</p>

5 あるボウリング場では、貸し出し用の靴をすべて新しいもの買い替えようとしています。そのために、貸し出し用の靴の総数や、過去1か月間に靴が貸し出された回数について調べました。

調べたこと

- 貸し出し用の靴の総数 200足
- 貸し出された回数の合計 7260回
- 貸し出された靴のサイズの平均値 24.5 cm
- 靴のサイズごとの貸し出された回数のグラフ

靴のサイズ (cm)	貸し出された回数
20.0	20
20.5	54
21.0	111
21.5	213
22.0	405
22.5	693
23.0	913
23.5	524
24.0	414
24.5	282
25.0	474
25.5	1087
26.0	717
26.5	593
27.0	360
27.5	207
28.0	80

上のグラフから、例えば、23.5 cmの靴は524回貸し出されたことがわかります。

調べたことをもとに、どのサイズの靴を何足買うかを考えます。

(2) 美咲さんは、この数当てゲームを優太さんと行いました。

美咲さんは、手順通りに求めた数が30であることから、優太さんが最初に決めた数は4であることを当てました。どのようにして当てることができたのか、文字を使って、その方法を考えます。

最初に決めた数を a として、前ページの手順にしたがって計算すると、次のようになります。

- ① 最初に決めた数を a とする。
- ② $a \times 10 = 10a$
- ③ $10a - 8$
- ④ $(10a - 8) \div 2 = 5a - 4$
- ⑤ $(5a - 4) + 14 = 5a + 10$

最初に決めた数を a とすると、手順通りに求めた数は $5a + 10$ という文字式で表されます。手順通りに求めた数 $5a + 10$ から最初に決めた数 a を当てる方法を説明しなさい。

(○B設問5(2) 正答47.2%)

(●設問6(2) 正答率17.9%、
無解答率35.9%)

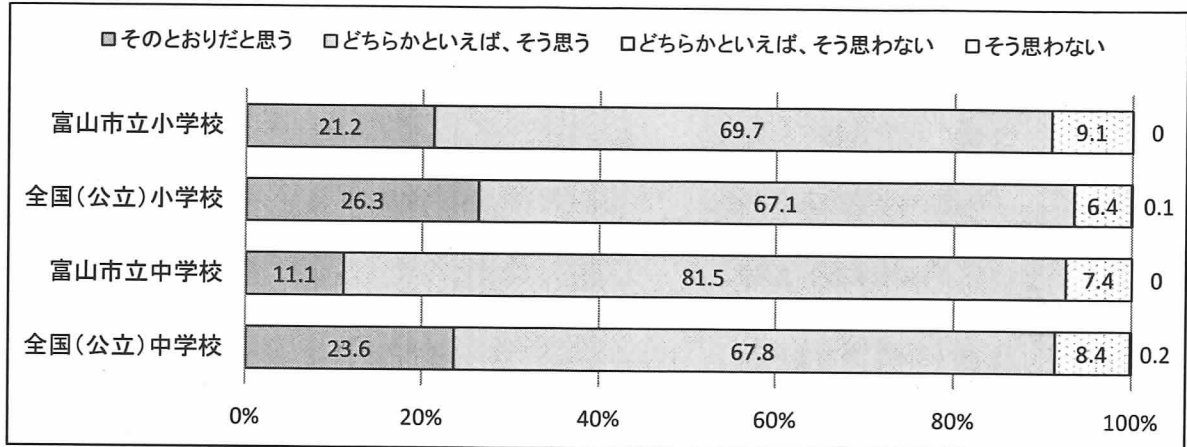
学校質問紙

(★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)

※ その他・無回答は、データに含んでいない。

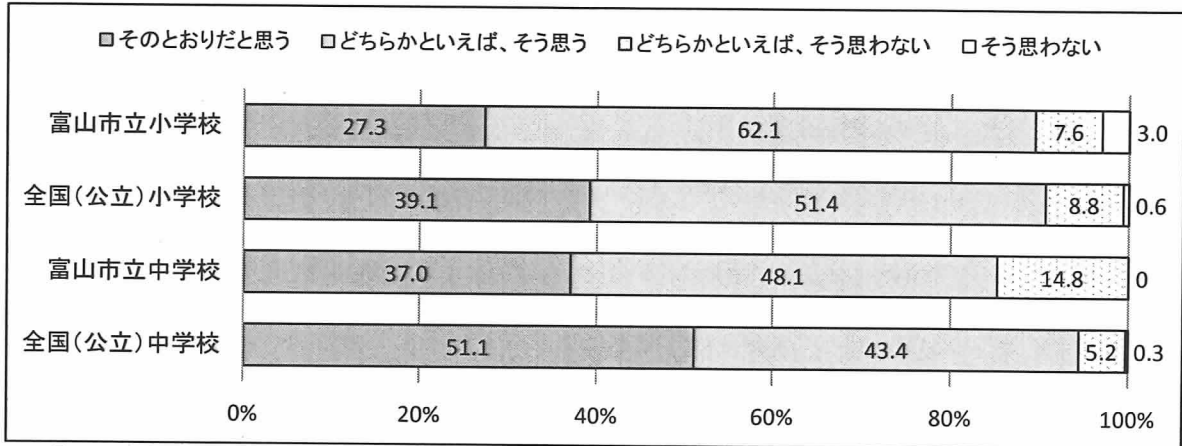
【児童・生徒】

1 児童生徒は熱意をもって勉強している。



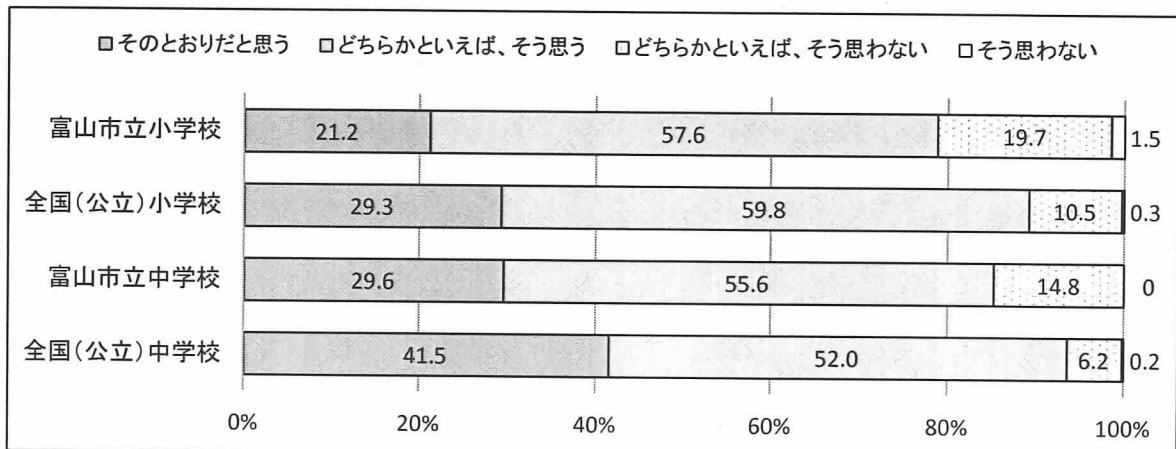
※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校はほぼ同じである。

2 授業中の私語が少なく、落ち着いている。



※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。

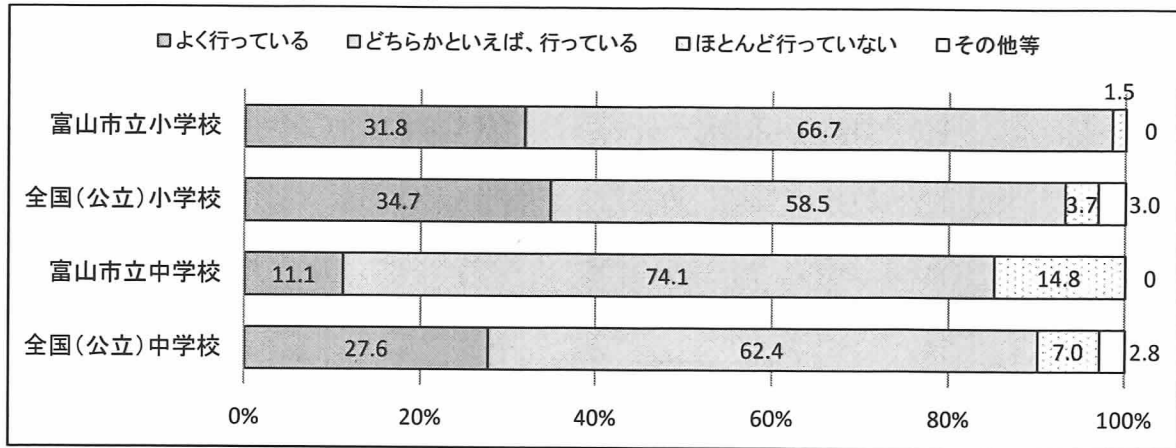
3 児童生徒は礼儀正しい。



※ 「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校は低い。

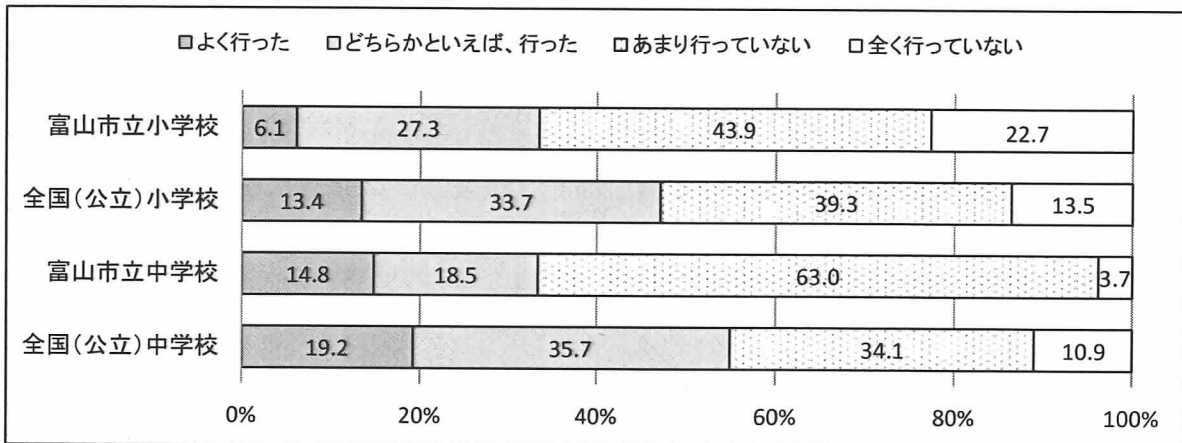
【学力向上に向けた取り組み】

4 全国学力・学習状況調査の結果を市学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている。



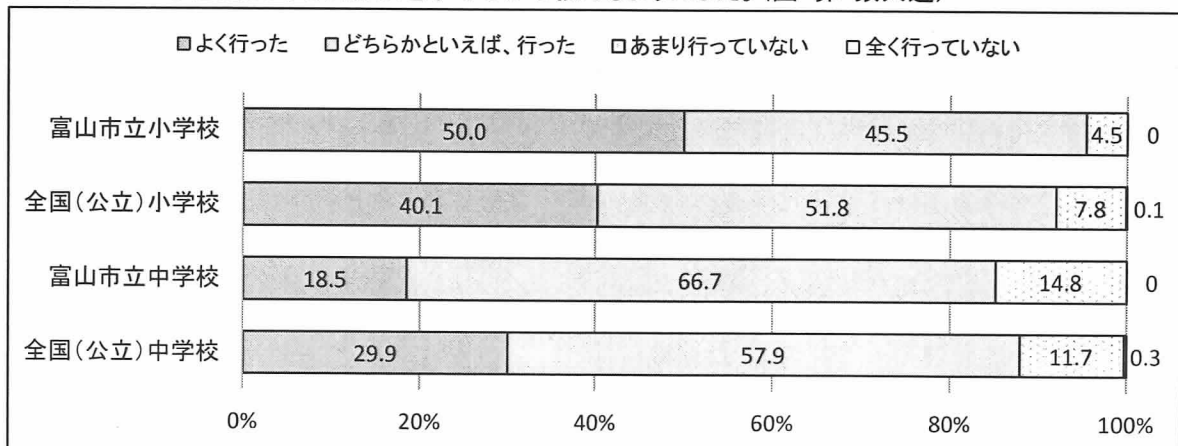
※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」学校の割合は、全国に比べて、小学校は高く、中学校はやや低い。

5 ★ 近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った。



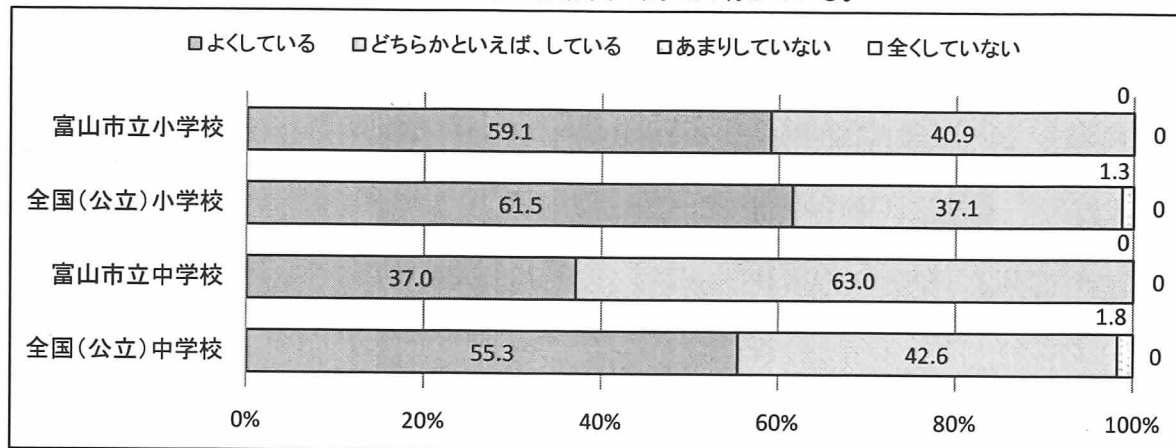
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともかなり低い。

6 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした。(国・算・数共通)



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや高く、中学校はやや低い。

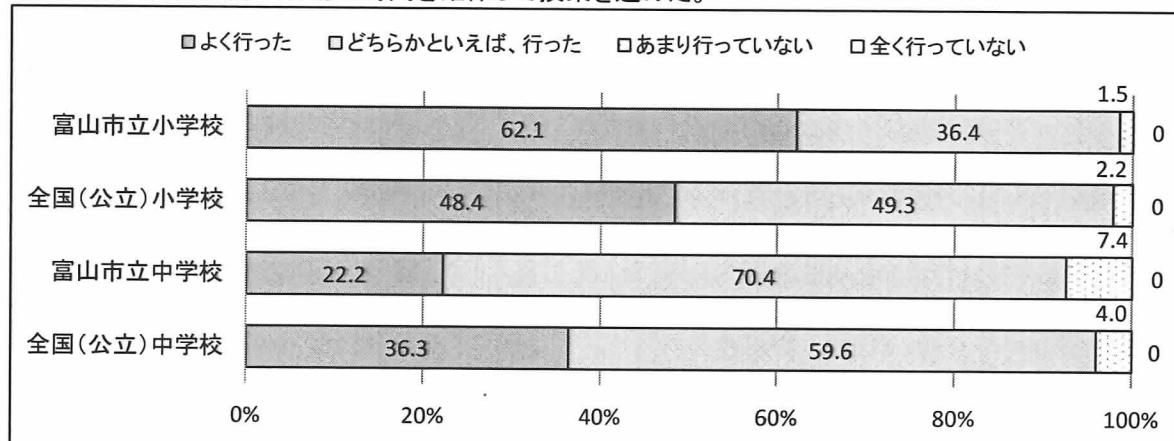
7 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校とにもほぼ同じで、全小・中学校が実施している。

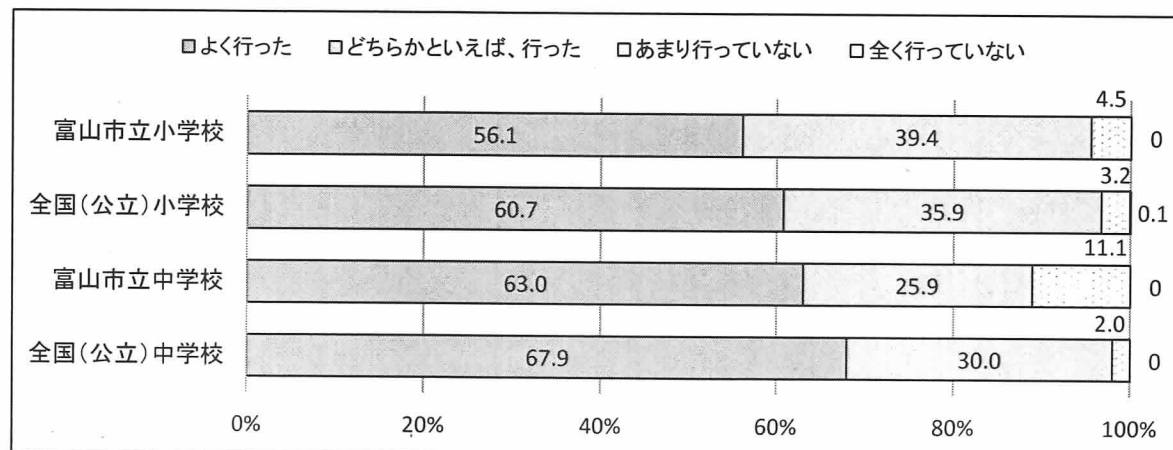
【指導方法・学習規律】

8 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた。



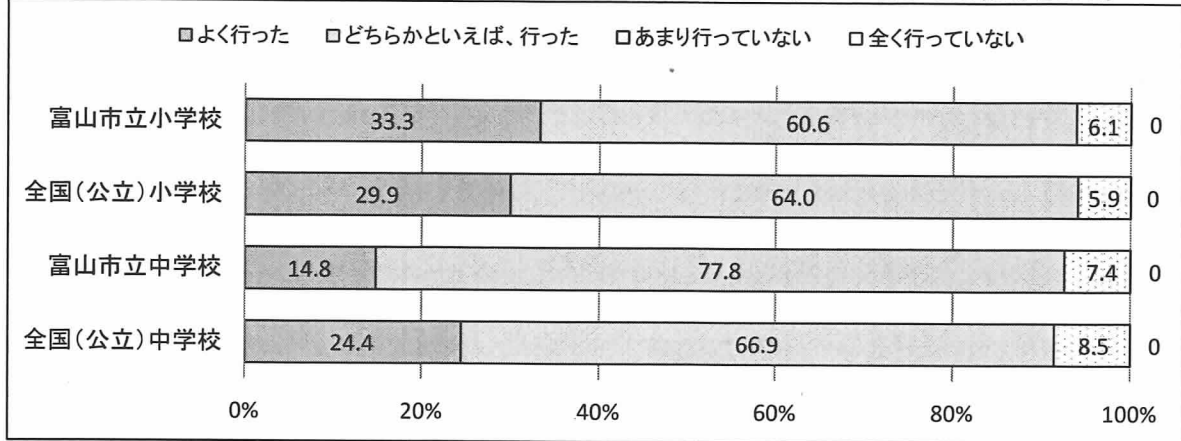
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや低い。

9 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底した。



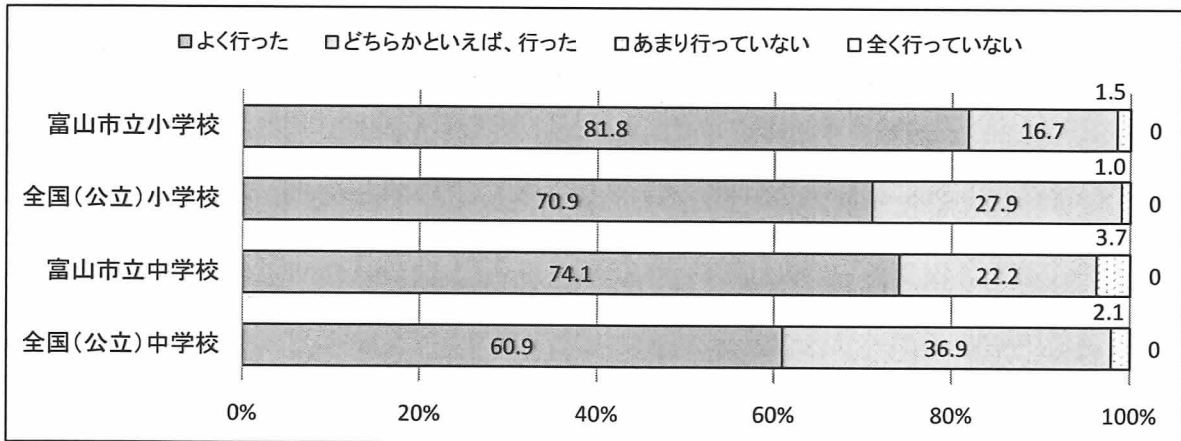
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。

10 児童生徒に対して、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした。



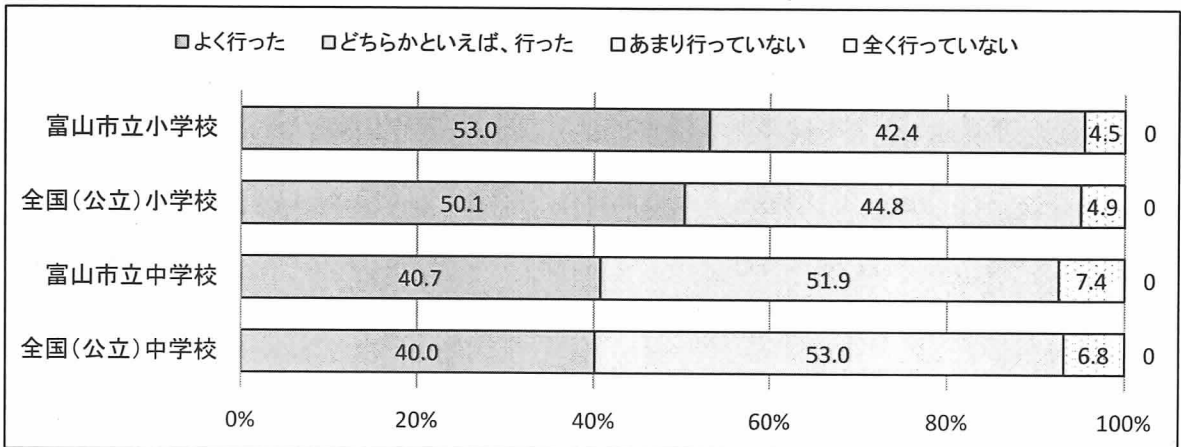
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

11 授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れた。



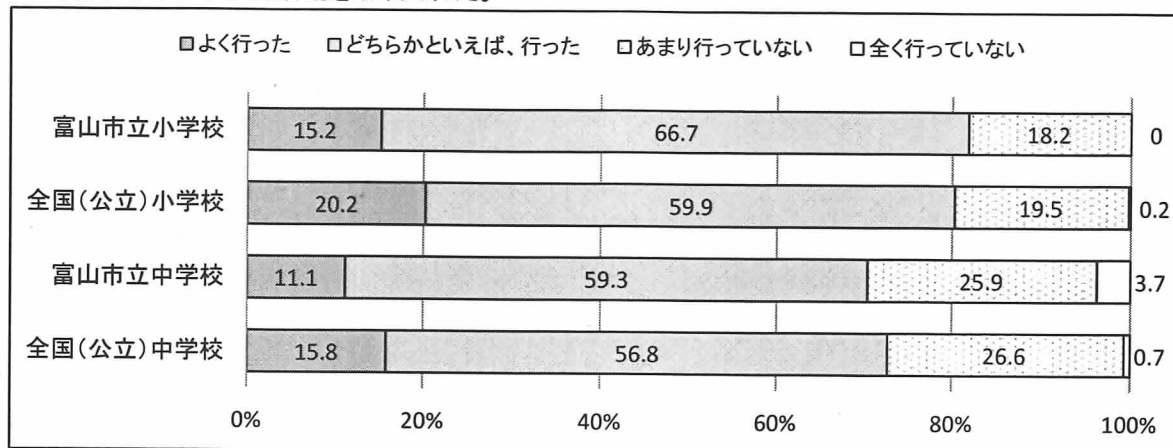
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

12 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。



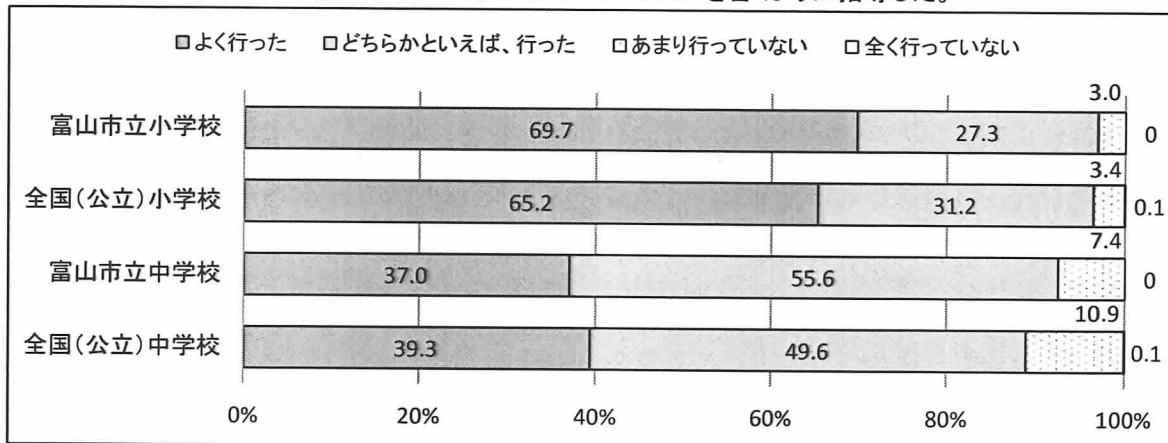
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

13 授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた。



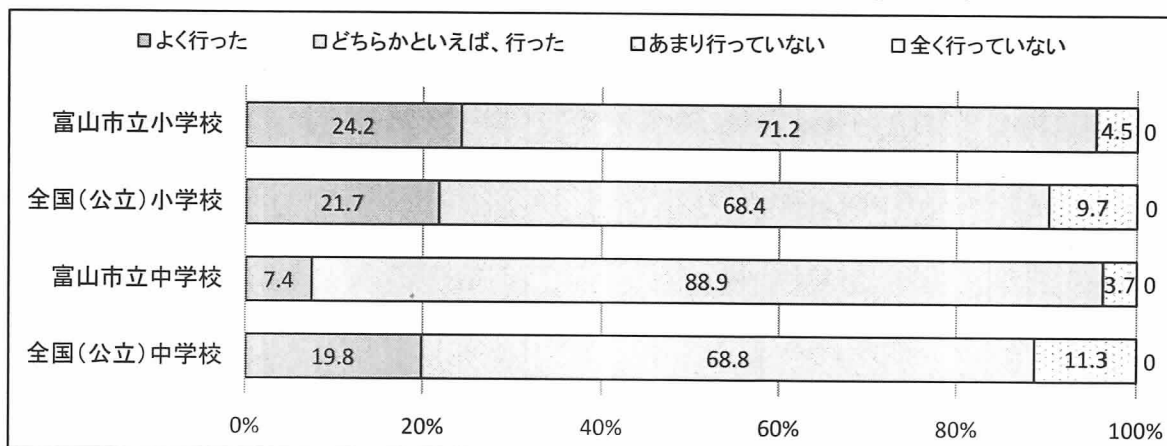
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

14 授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導した。



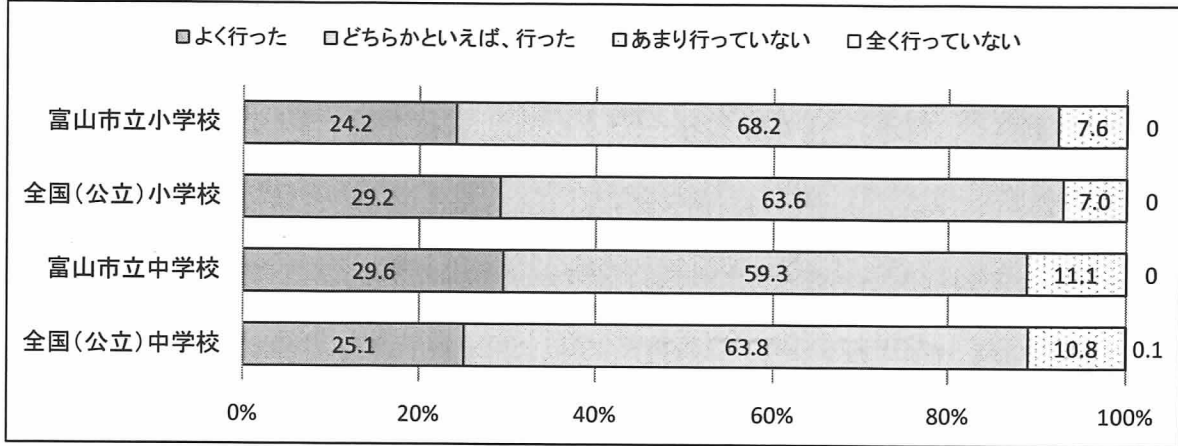
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや高い。

15 ★ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともに高い。

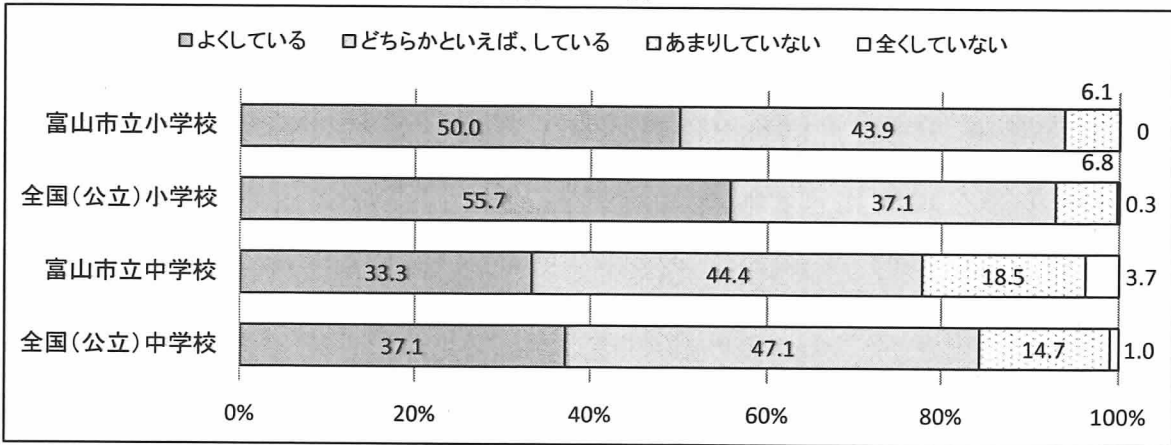
16 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた。



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

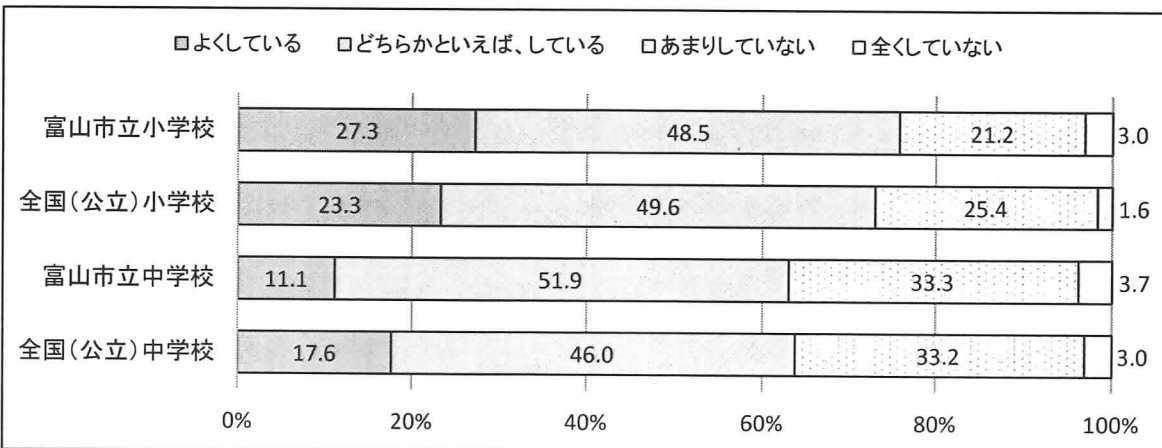
【教員研修】

17 模擬授業や事例研究等、実践的な研修を行っている。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。

18 ★ 児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや高く、中学校はほぼ同じである。

★ 学校質問紙調査の結果から 肯定的な回答：「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」、または「よく行った」「どちらかといえば、行った」を合わせたもの

児童・生徒 全国比：平成28年度本市と全国を比較したもの H27比：本市平成28年度と平成27年度を比較したもの ○は今年度より調査項目になった質問

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H27比	考察
1 児童生徒は熱意をもって勉強している	小	90.9%	-2.5	+3.2	2 「私語が少なく、落ち着いている」と回答している中学校の割合は、全国と比べると低く、昨年度と比べるとかなり低い結果となっている。学習規律や挨拶、丁寧な言葉遣い等が定着するまで、根気強く指導していく必要がある。
	中	92.6%	+1.2	+3.7	
2 授業中の私語が少なく、落ち着いている	小	89.4%	-1.1	+1.7	
	中	85.1%	-9.4	-11.1	
3 児童生徒は礼儀正しい	小	78.8%	-10.3	+1.9	
	中	85.2%	-8.3	+7.5	

学力向上に向けた取り組み

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H27比	考察
4 各種調査等の結果を分析し、具体的な教育指導の改善を行った	小	98.5%	+5.3	-1.5	4 「各種調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善を行った」と回答している中学校の割合は、昨年度と比べるとかなり高くなったが、全国と比べると低い結果となっている。今後も、調査結果を生かし、 <u>全教職員が学校の課題と解決のための方策を共通理解し、全校体制で指導の改善に努めていくことが大切である。</u> 5 「小中連携」について、肯定的な回答をした学校の割合が、全国と比べるとかなり低い結果となっている。 <u>小中連携を中心とした確かな学力の育成に関する研究を進めるモデル校の実践等を参考にして、9年間を見通した一貫性のある指導を進めていく必要がある。</u> 6 「家庭での学習方法等」について、肯定的な回答をした小学校の割合は、昨年度と比べると高い結果となっている。
	中	85.2%	-4.8	+14.8	
◎ 5 近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った	小	33.4%	-13.7	-	
	中	33.3%	-21.6	-	
6 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた	小	95.5%	+3.6	+7.8	
	中	85.2%	-2.6	±0	
7 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している	小	100%	+1.4	+1.5	
	中	100%	+1.8	±0	

指導方法・学習規律

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	H27比	考察
8 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた	小	98.5%	+0.8	+3.1	9 「学習規律の維持を徹底している」と回答した中学校の割合は、全国、前年度と比べると低い結果となっている。 <u>各学校で「学習のきまり」等を見直し、全教職員で徹底し、繰り返し指導していく必要がある。</u> 11.12 ほとんどの学校が、「授業の中で
	中	92.6%	-3.3	-7.4	
9 学習規律の維持を徹底していた	小	95.5%	-1.1	+1.6	
	中	88.9%	-9.0	-7.4	

10	自分で調べたことや、考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした	小	93.9%	±0	+1.6	<p>目標を示す活動を取り入れた」や「授業の最後に振り返る活動を取り入れた」と回答をしている。特に、「授業の最後に振り返る活動」と回答した中学校の割合が、昨年度と比べると高い結果となっている。今後さらに、ノートに課題やまとめを書く活動を取り入れ、児童生徒が見通しをもって学習に取り組み、学習の成果を実感することができるようにしていくことが大切である。</p> <p>13 「課題設定、話し合い、まとめ、表現する学習活動を取り入れている」と回答した学校の割合は、小中学校とも昨年度と比べるとかなり高い結果となっている。今後、児童生徒が自ら課題を設定し、その解決のために主体的に取り組むことができるような授業展開の工夫が必要である。</p> <p>15 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った」と回答した学校の割合が、全国と比べると小中学校ともに高い結果となっている。学習指導要領の改訂に向け、さらなる改善及び工夫が求められる。</p> <p>○ 教師が指導したと考えていることが、児童生徒も同じようにとらえているかを、児童生徒質問紙の結果等で確認し、児童生徒が主体的に学習できているかを検証することが重要である。</p>
		中	92.6%	+1.3	+3.7	
11	授業の中で目標を示す活動を取り入れた	小	98.5%	-0.3	+1.6	
		中	96.3%	-1.5	±0	
12	授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れた	小	95.4%	+0.5	+1.6	
		中	92.6%	-0.4	+7.5	
13	課題設定、話し合い、まとめ、表現する学習活動を取り入れた	小	81.9%	+1.8	+18.9	
		中	70.4%	-2.2	+7.4	
14	ノートに学習の目標とまとめを書くように指導した	小	97.0%	+0.6	+9.3	
		中	92.6%	+3.7	-3.7	
◎ 15	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った	小	95.4%	+5.3	-	
		中	96.3%	+7.7	-	
16	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた	小	92.4%	-0.4	+3.1	
		中	88.9%	±0	-3.6	

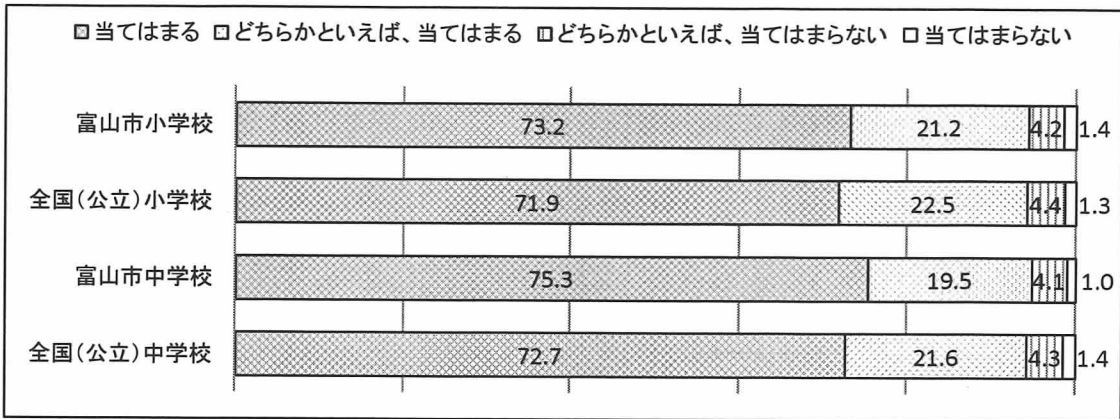
教員研修

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H27比	考 察
17	模擬授業や事例研究等、実践的な研修を行っている	小	93.9%	+1.1	-4.6	17 「実践的な研修を行っている」と回答した中学校の割合は、全国と比べると低く、前年度と比べるとかなり低い結果となっている。各校でOJT等を踏まえ、授業技術等、指導力の向上を目指した研修を行っていく必要がある。
		中	77.7%	-6.5	-14.9	
◎ 18	児童生徒が自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	小	75.8%	+2.9	-	18 「自ら課題を設定し、解決する学習活動を学ぶ研修を行った」と回答した小学校の割合は、全国と比べるとやや高い結果となっている。ただ、実施している割合は、小中学校とも他の項目と比べると低く、今後の改善が必要である。
		中	63.0%	-0.6	-	

児童生徒質問調査 (★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)

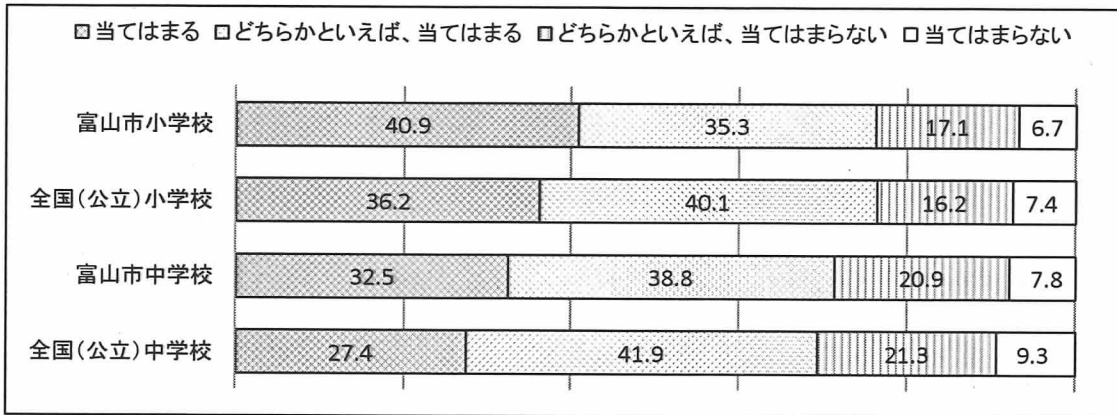
【自尊感情】

1 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



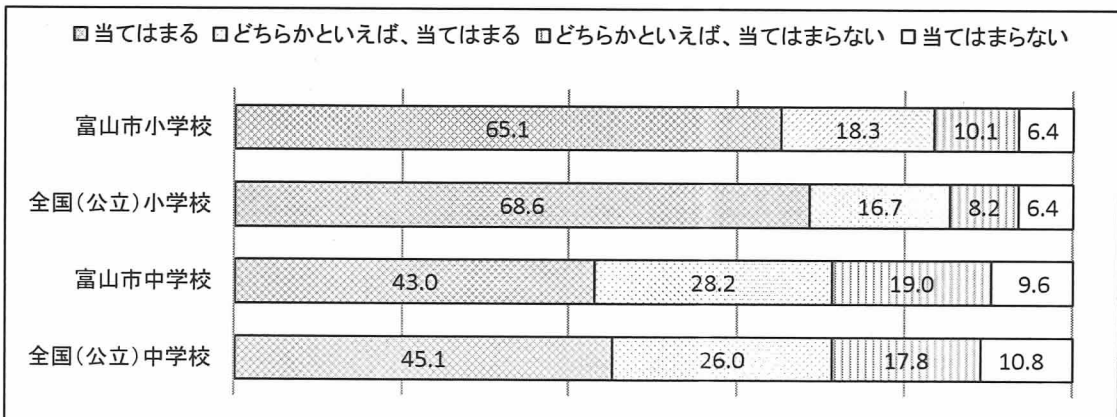
※ 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「どちらかといえば、ある」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

2 自分には、よいところがあると思いますか。



※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

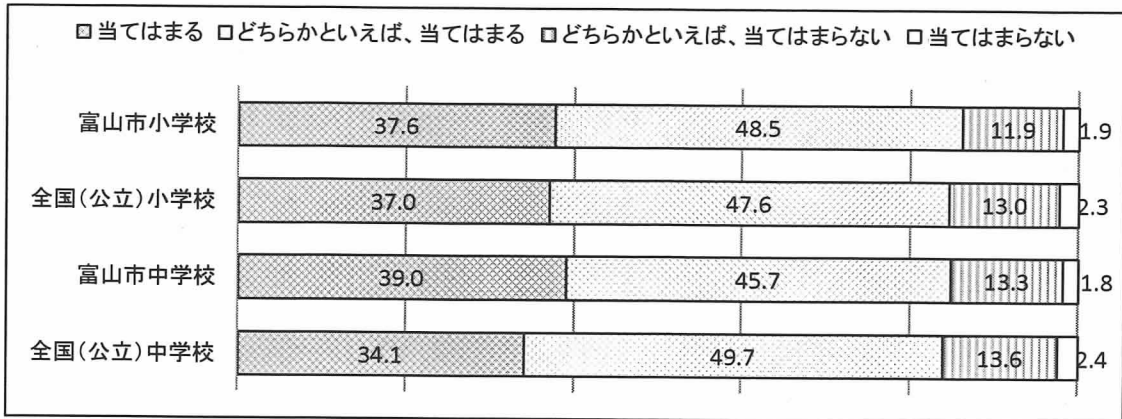
3 将来の夢や目標を持っていますか。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

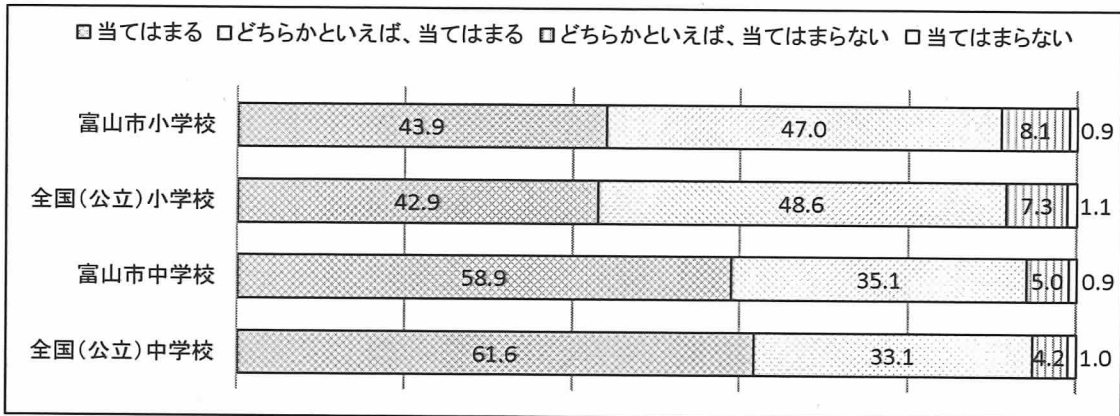
【規範意識】

4 ★ 人が困っているときは、進んで助けていますか。



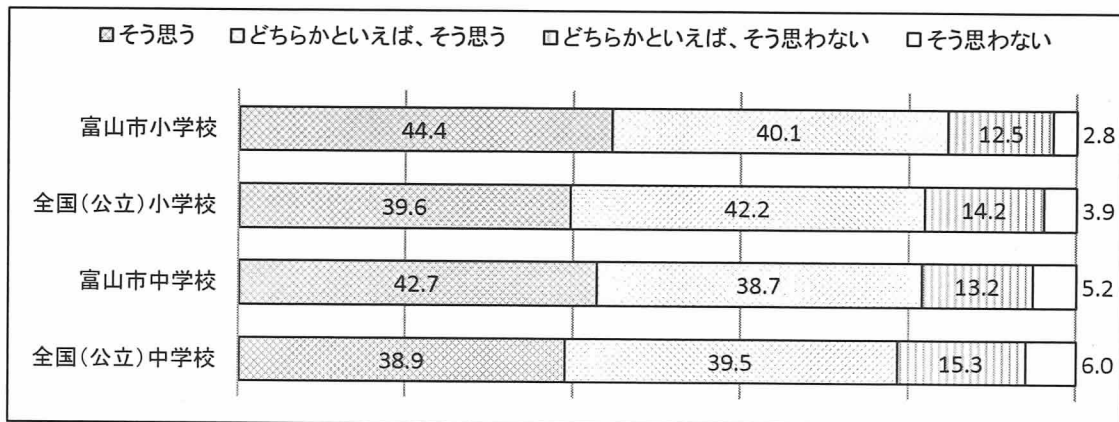
※ 「人が困っているときは、進んで助けていると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

5 学校のきまり(規則)を守っていますか。



※ 「学校のきまり(規則)を守っている」「どちらかといえば、守っている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

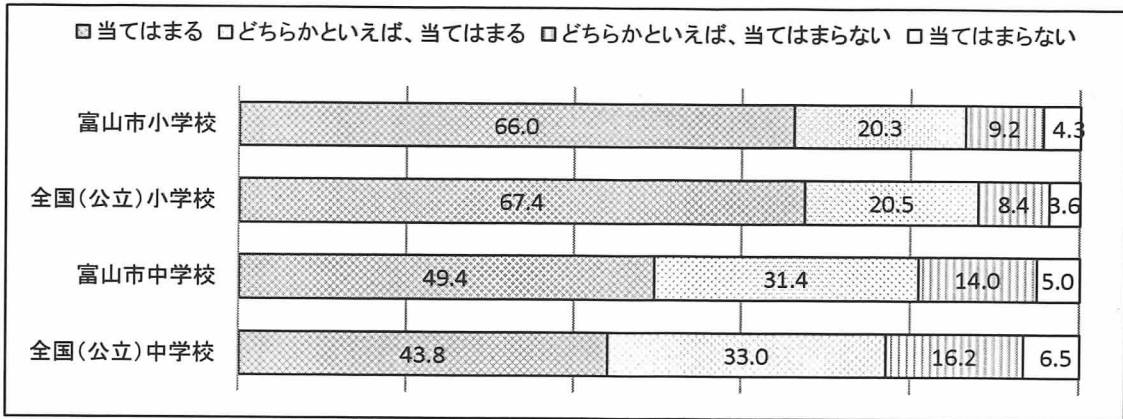
6 あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思いますか。



※ 「友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国よりやや高い。

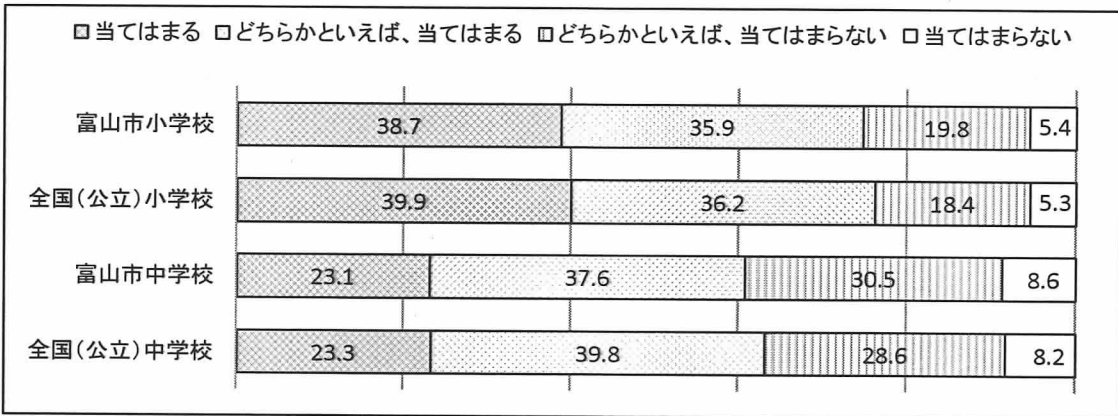
【授業での活動】

7 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか。



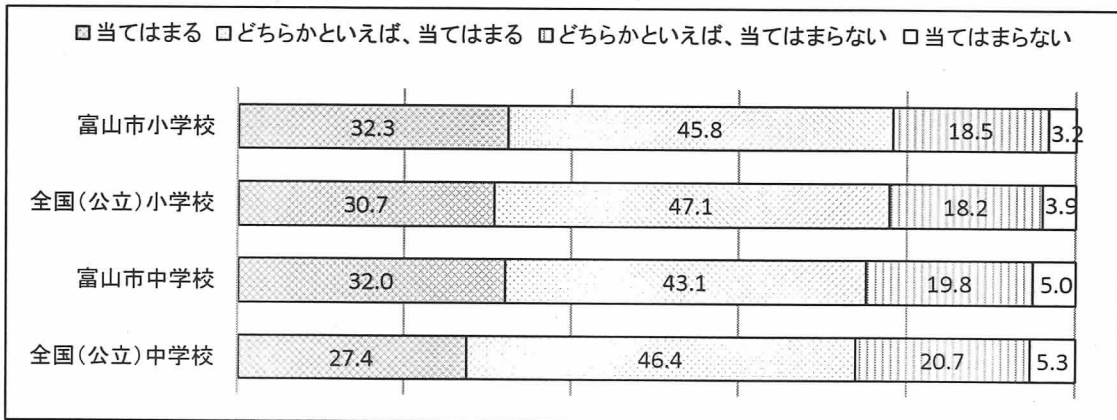
※ 「ノートに目標とまとめを書いていたと思う」「どちらかといえば、書いていたと思う」児童の割合は、全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや高い。

8 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。



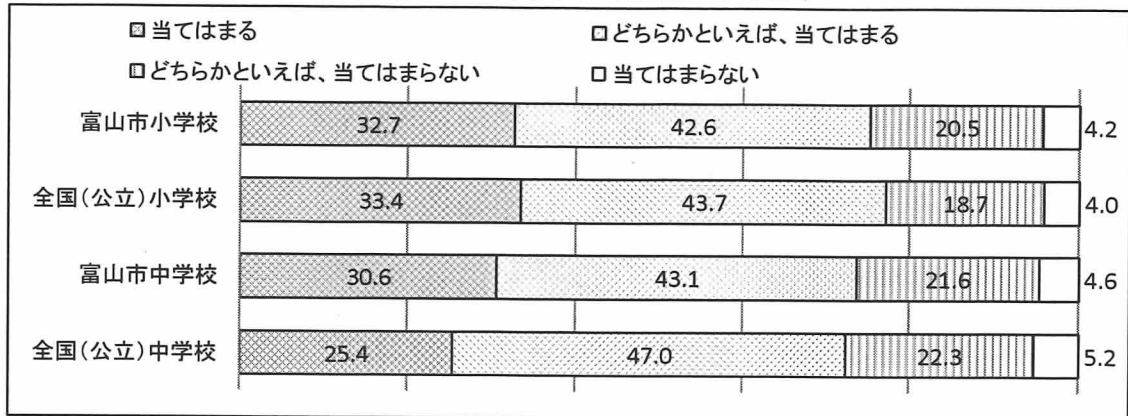
※ 「学習内容を振り返る活動を行っていたと思う」「どちらかといえば、行っていたと思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

9 ★ 授業では、先生から指示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う。



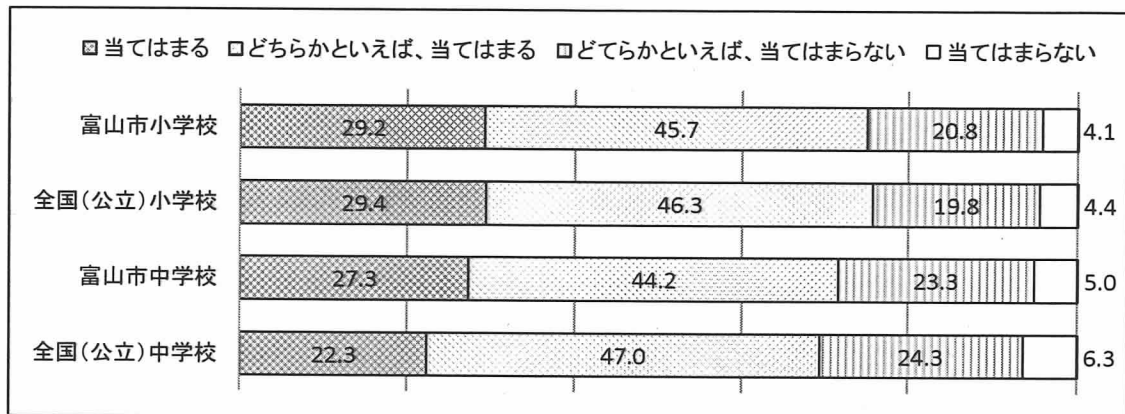
※ 「自ら考え、自分から取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、取り組んでいたと思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

10 ★ 授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

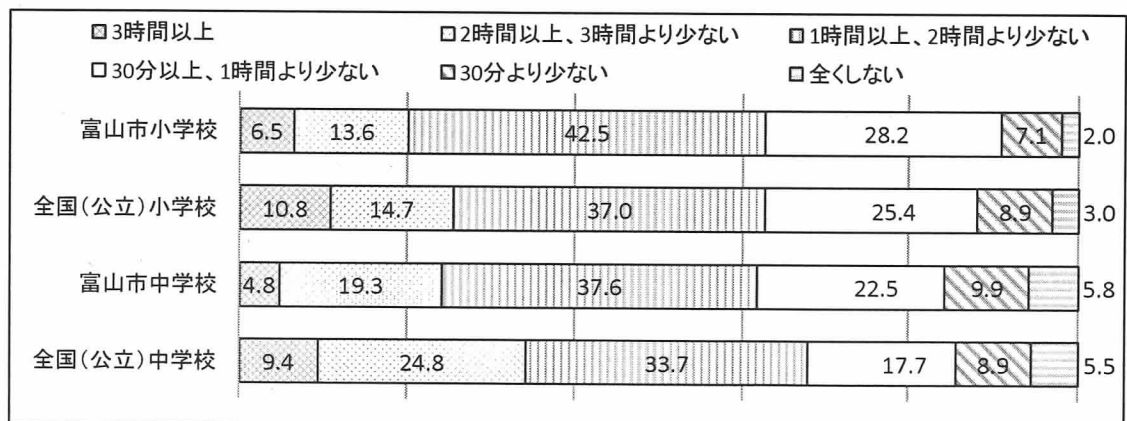
11 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。



※ 「自分たちで課題を立て、情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

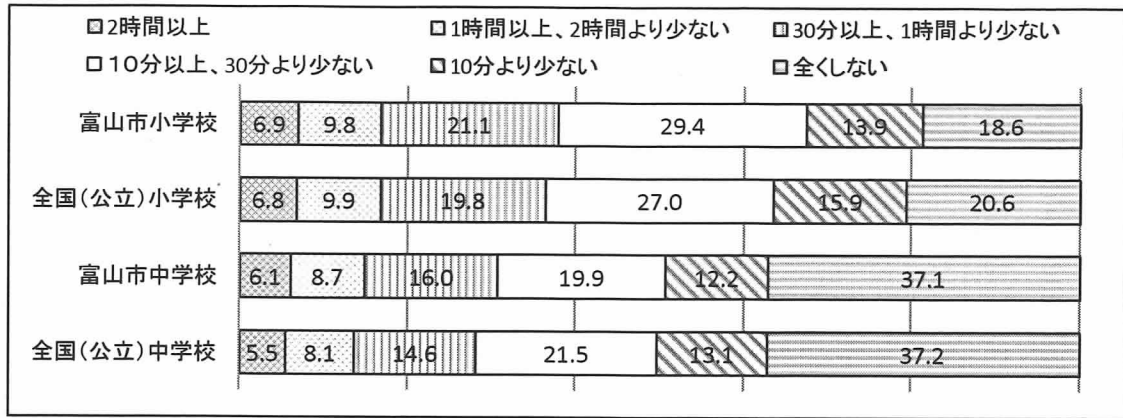
【家庭学習】

12 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1時間以上勉強している」児童の割合は、全国とほぼ同じで、生徒の割合は低い。

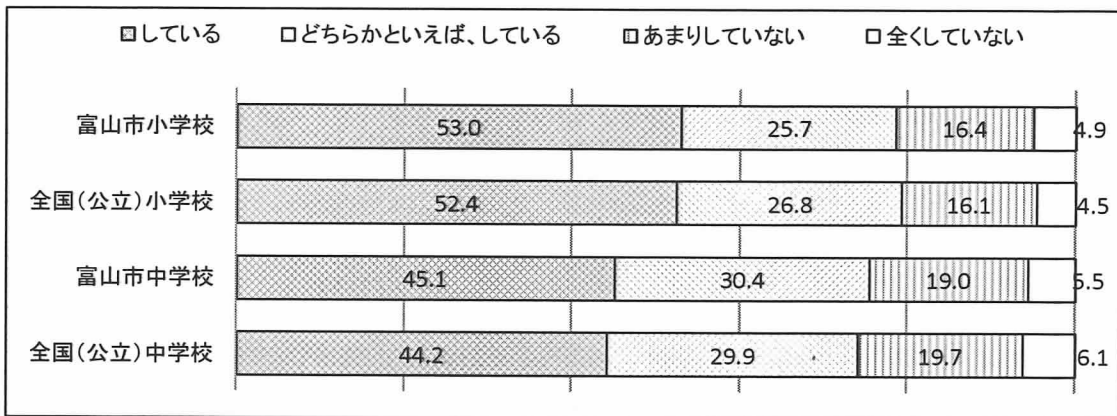
13 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、家や図書館で30分以上読書をしている」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや高い。

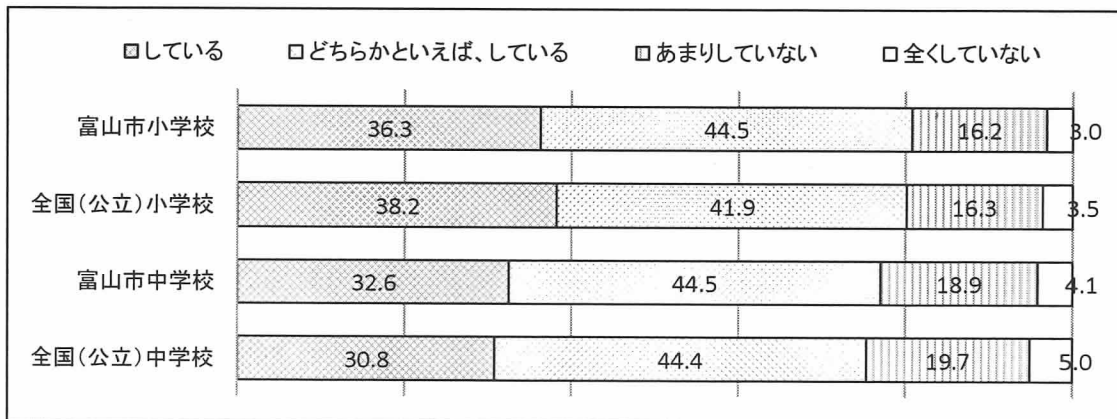
【家庭での生活】

14 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。



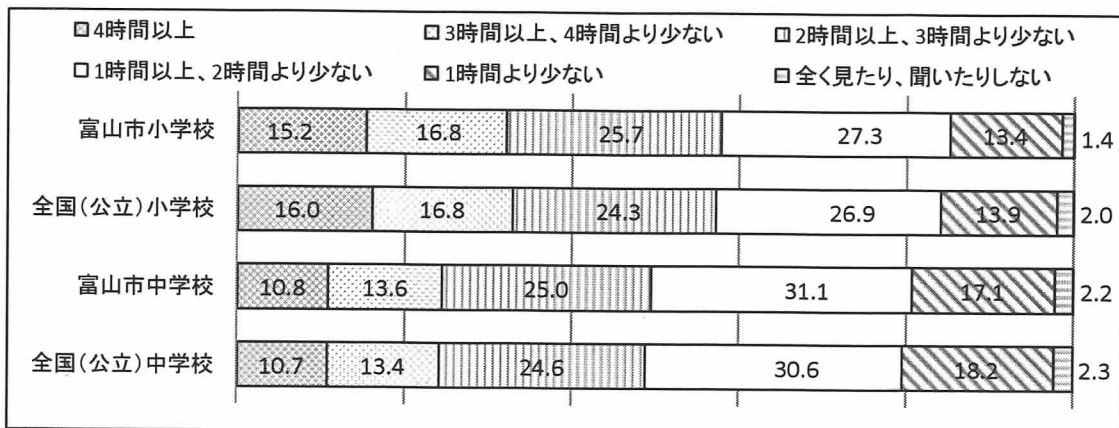
※ 「家の人と話をよくしている」「どちらかといえば、している」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

15 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



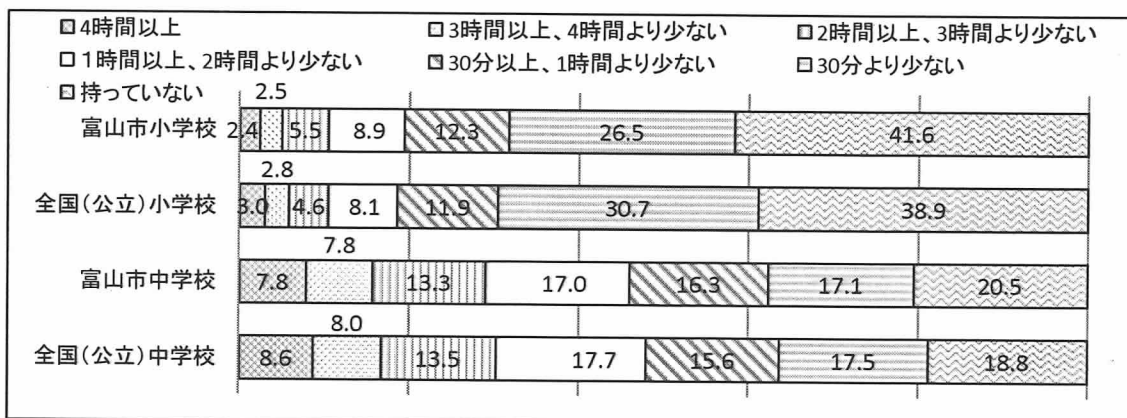
※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

16 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。



※ 「2時間より少ない」「全く見たり、聞いたりしない」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

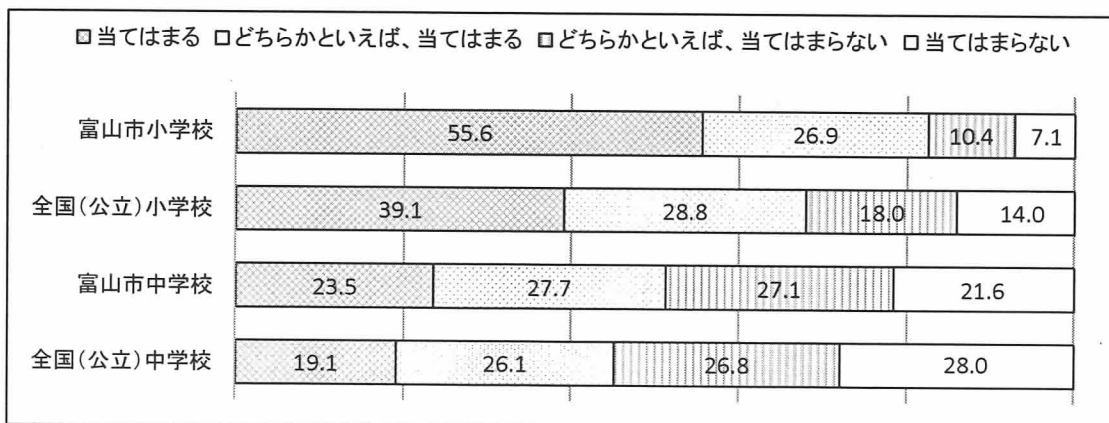
17 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。



※ 「メールやインターネットをする時間が30分より少ない」「携帯電話やスマートフォンを持っていない」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

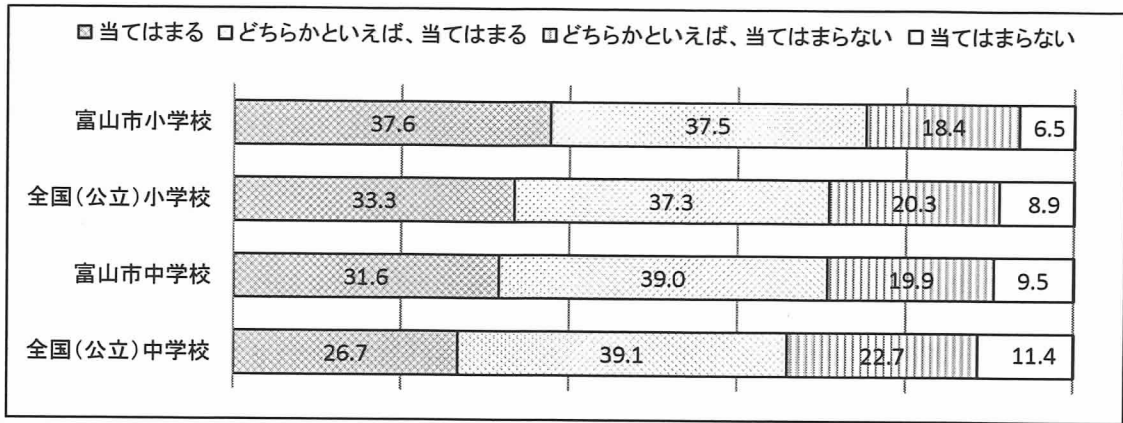
【地域や社会に対する興味・関心】

18 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



※ 「地域の行事に参加している」「どちらかといえば、している」児童の割合は全国よりかなり高く、生徒の割合は高い。

19 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。



※ 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「どちらかといえば、関心がある」児童生徒の割合は、全国よりやや高い。

★ 児童生徒質問紙調査の結果から 肯定的な回答：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの
 自尊感情等 全国比：平成28年度本市と全国を比較したもの H27比：本市平成28年度と平成27年度を比較したもの ◎は今年度より調査項目になった質問

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H27 比	考 察
1	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある	小	94.4%	±0	-0.9	<ul style="list-style-type: none"> 「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。ただ、小学校では、減少している。特に小学校において、<u>将来の夢や生き方について考えることができるキャリア教育等の学習を工夫することで、自分に必要な知識等を主体的に獲得しようとしたり、夢の実現に向けて目標を設定して学習に取り組んだりすることが期待できる。</u>
		中	94.8%	+0.5	-0.2	
2	自分には、よいところがあると思う	小	76.2%	-0.1	-0.5	
		中	71.3%	+2.0	-1.7	
3	将来の夢や目標をもっている	小	83.4%	-1.9	-2.5	
		中	71.2%	+0.1	+1.2	

規範意識

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H27 比	考 察
◎ 4	人が困っているときには、進んで助けている。	小	86.1%	+1.5	-	<ul style="list-style-type: none"> 「人が困っているときには、進んで助けている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。今後も、<u>より積極的に他を思いやる意識を高める必要がある。</u> 「話し合って学級のきまりをきめている」児童生徒の割合は、全国よりやや高い。今後も、自分たちできまりについて話し合って決め、定期的に振り返り、改善していくことで規範意識も高めることが期待できる。
		中	84.7%	+0.9	-	
5	学校のきまり（規則）を守っている	小	90.9%	-0.6	-0.2	
		中	94.0%	-0.7	+0.6	
6	学級会などの時間に友達同士で話し合っ、学級のきまりなどをきめている	小	84.5%	+2.7	-1.3	
		中	81.4%	+3.0	-0.2	

授業での活動

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H27 比	考 察
7	授業のノートに目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う	小	86.3%	-1.6	+1.6	<ul style="list-style-type: none"> 「学習内容の振り返りを行った」と回答した生徒の割合は、昨年度より高くなり、全国との差が小さくなった。今後は、<u>振り返る時間の確保だけでなく、振り返る方法の工夫を行い、学習の成果を児童生徒が実感できるようにしていく必要がある。</u> 「課題を立て、情報を集め・整理し、発表する活動に取り組んだ」と回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。しかし、<u>主体的な学びが求められている現在において、今後も児童生徒が主</u>
		中	80.8%	+4.0	+8.3	
8	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う	小	74.6%	-1.5	-1.6	
		中	60.7%	-2.4	+5.5	
◎ 9	自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う。	小	78.1%	+0.3	-	
		中	75.1%	+1.3	-	
◎	相手の考えを最後まで聞き、自分	小	75.3%	-1.8	-	

10	の考えをしっかりと伝えていたと思う。	中	73.7%	+1.3	-	体的に課題を解決していく授業づくりを工夫することが大切である。
11	学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、情報を集め・整理し発表する活動に取り組んだと思う	小	74.9%	-0.8	-1.2	
		中	71.5%	+2.2	+0.5	

家庭学習

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H27 比	考 察
12	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上学習している	小	62.6%	+0.1	-3.6	<ul style="list-style-type: none"> 授業での学びが確認できたり、活用できたりする課題と児童生徒が自ら考えて実践する自主的な課題を発達段階に応じて提示するなどして家庭学習の学習時間の確保が必要である。
		中	61.7%	-6.2	-1.7	
13	普段（月～金曜日）、家や図書館で30分以上読書している	小	37.8%	+1.3	-2.3	
		中	30.8%	+2.6	-1.3	

家庭での生活

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H27 比	考 察
14	家の人と学校での出来事について話をしている	小	78.7%	-0.5	-1.3	<ul style="list-style-type: none"> 「携帯電話やスマートフォンの使用が30分より少ない」児童生徒の割合は、昨年に比べ低くなり、全国とほぼ同じである。一方、小学校では1割、中学校では3割程度の児童生徒が、「2時間以上」使用している。利用時間が増加傾向にあることから、帰宅後の生活リズムの崩れが懸念される。 帰宅後、インターネット等の利用時間が多くなるにつれ、家庭学習の時間が確保できていないことが分かる。家庭と連携して、適切な視聴時間、生活リズムの自己管理を自主的に行うように繰り返し指導する。また、児童会・生徒会活動でルールづくりを行うなど、自ら節度ある利用に取り組もうとする意欲を高める取り組みが必要である。
		中	75.5%	+1.4	+0.2	
15	毎日、同じ時刻に寝ている	小	80.8%	+0.7	+1.9	
		中	77.1%	+1.9	+1.4	
16	テレビやDVDなどの視聴は2時間よりも少ない	小	42.1%	-0.7	+3.1	
		中	50.4%	-0.7	+5.9	
17	普段（月～金曜日）、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている時間は1日当たり、30分より少ない	小	68.1%	-1.5	-4.3	
		中	37.6%	+1.3	-2.6	

地域や社会に対する興味・関心

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H27 比	考 察
18	今住んでいる地域の行事に参加している	小	82.5%	+14.6	-0.4	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の行事に参加している」児童の割合は、全国と比べるとかなり高い。生徒の割合も全国に比べると高い。ここから、地域と一体になった児童生徒の育成が図られていることが分かる。今後も地域や社会に目が向くような働きかけを行い、地域を愛する気持ちを高めるよう努めていきたい。
		中	51.2%	+6.0	+1.5	
19	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある	小	75.1%	+4.5	+2.3	
		中	70.6%	+4.8	+9.9	